

目次

第一編 自然環境

第一章 位置・面積	15
一、位置	15
1 数理的位置	15
2 交通的位置	15
二、面積	18
第二章 地形	18
一、地形の概況	18
二、各地区の地形	22
三、地形と人文	32
第三章 地質	34
一、地質の概要	34
二、各地区の地質	36
三、土壌の概要	50
第四章 気候	52
一、気候概況	52

第二編 歴史

第二章 生物	67
一、植物	67
1 概観	67
2 伊豫岡八幡の植物	67
3 谷上山の植物	72
4 鶉の崎・唐川の植物	75
5 遺体植物	76
6 帰化植物	82
二、動物	83
1 ほ乳類	83
2 鳥類	84
3 その他のセキツイ動物	85
4 昆虫	86
二、気象条件の特徴	55
1 気温	55
2 天候	56

第一章 原始・古代……………91

一、縄文時代……………92

二、弥生時代……………93

1 そのころの生活……………93

2 弥生式土器・石器の出土……………94

三、古墳……………102

四、律令制度になつての伊豫……………112

1 伊豫郡の成立(国・郡・里)……………112

2 条理制……………114

3 伊豫の荘園……………115

第二章 中世……………116

一、中世の概況……………116

第三章 近世……………122

一、領主の交替……………122

二、大洲加藤氏……………125

三、替地問題とその余波……………127

1 大洲領と松山領の替地……………127

2 米湊網代騒動……………130

3 大洲松山入会山紛争……………136

四、天領問題……………142

1 加藤泰堅・所領没収……………142

2 天領の成立……………143

3 公料替地……………145

五、農民問題……………146

1 百姓一揆……………146

2 麻生水論……………153

六、貯穀と備荒の展開……………156

1 窮民救済と備荒……………156

2 幕府貯穀令……………157

七、郡中築港……………170

1 築港への道……………170

2 経理と修補……………175

八、災害と疫禍……………179

1 地震と干害……………179

2 コレラ・麻疹……………183

九、農兵制度……………185

1 郷筒の成立……………185

2 農兵の準足軽化……………187

3 郡中保国隊……………188

一〇、郡民支配……………192

1 支配のしくみ……………192

2 村法制法……………197

3 貢租……………204

一、町郷の展開……………209

1 三町の成立と発展……………209

2 郷村の流れ……………213

3 村役人……………217

二、開発と産業……………223

一三、新政と郡中……………238

1 松山征討……………238

2 めまぐるしい新政……………239

3 廃藩置県……………242

4 大洲若宮騒動……………243

5 宇和島県・松山県への移行……………250

第四章 近代……………252

一、明治以降の郡中地方……………252

1 明治初年の状況……………252

2 明治以降の備荒制度(郡中貯)……………257

3 ロシア捕虜と彩浜館……………261

二、特産物の変遷……………263

第三編 行政・財政

第一章 行政区画の変遷……………285

一、集落の形成……………285

1 山腹の集落、鶴の崎・両沢……………285

2 背後に山を負った農村集落……………286

3 計画的に形成された在町……………289

二、明治前期の行政区画……………290

1 明治維新後の村村……………290

2 郡区町村編成法と郡役所……………295

3 市制・町村制の公布と地方自治制の確立……………296

第二章 市制実施……………300

一、市制実施を必要とした理由……………300

二、合併に至るまでの経緯の概要……………300

1 本郡の塩田……………263

2 はぜと木ろう……………264

3 三島陶器……………270

4 唐川の砥石……………274

5 絣織物業……………278

6 郡中の陶磁器……………280

八、人口動態	396
2 新国民健康保険	395
1 制度の沿革	394
1 国民健康保険	394
2 隔離病舎	393
1 診療所（開業医等）	392
六、医療関係施設	392
4 廃棄物（清掃事業）	388
3 下水道	387
2 伊豫市上水道の誕生	383
1 上水道	380
五、環境衛生	380
4 母子保健	378
2 脳卒中・心臓病	377
1 がん	375
三、成人病	373
3 寄生虫	373
2 慢性伝染病	372
1 急性伝染病	369
二、伝染病予防と寄生虫駆除	369
2 保健所の設置	367

1 伊豫市の人口	396
2 自然増加	398
第六章 土木	399
一、道路と橋梁	399
二、港湾	402
三、都市計画	404
四、治水	406
第七章 警備・治安	408
一、警備	408
1 消防の沿革	408
2 近代における消防	415
二、治安	426
1 民衆による治安―保安組合	426
2 伊豫警察署の沿革	427
3 警察庁舎の建築とその他の施設	430
4 歴代署長	433
第八章 徴兵・兵事	434
第九章 選挙	476
一、選挙制度のあゆみ	476
二、国および地方選挙	479

三、新市建設計画	303
四、合併の協定書	311
五、市設置の申請	313
1 合併の議決	313
六、伊豫市設置の許可	315
七、県議会の議決	315
八、伊豫市制施行	316
九、伊豫市のあゆみ	318
1 伊豫市の誕生	318
2 伊豫市政の概要	318
3 伊豫市歴代の三役	319
4 市議会	319
5 行政事務機構	320
6 鶴の崎部落の境界変更	323
7 平岡部落の境界変更	326
第三章 財政	329
一、旧町村の財政	329
1 財政規模と住民負担の推移	329
2 徴税制度と貯蓄組合	331
二、伊豫市の財政	333

1 健全財政の維持	333
2 財政の推移	334
第四章 社会福祉	337
一、社会福祉法に基づく事業	337
1 生活保護	337
2 児童福祉	340
3 母子福祉	344
4 精神薄弱者福祉	346
5 老人福祉	347
6 身体障害者福祉	351
二、その他	353
1 国民年金	353
2 地方改善事業	354
3 交通災害共済制度	355
4 戦争犠牲者の援護	356
5 社会福祉協議会	357
6 民間活動	359
第五章 保健衛生	364
一、明治以後の衛生行政	364
1 衛生組合	367

1	国の選挙	479
2	地方選挙	486
三、選挙管理委員会と明るい選挙推進協議会		495
1	選挙管理委員会	495
2	明かるい選挙推進協議会	496
第一〇章 労働問題		497
一、明治初期の農民運動		497
二、戦前の労働運動		498
1	郡中町の暴動	498
2	労働組合運動	502
三、戦後の労働運動		504
1	労働者の生活破たんと虚脱状態	504
2	労働組合の発生と伊豫市職組の争議	505
第十一章 広報及び区長会		507
一、広報と行政		507
1	はじめに	507
2	広報紙の発行	508
3	市民の声を聞く会(市政懇談会)	510
二、区長会と行政		510
三、各種委員会		514

第四編 産業・経済

1	教育委員会	514
2	選挙管理委員会	514
3	公平委員会	515
4	監査委員会	515
5	固定資産評価審査委員会	516
6	農業委員会	516
第二章 官公署・施設等		517
第一章 農業経営		525
一、土地利用と水利		525
1	農地の分布及び土地利用の推移	525
2	農地の権利移動	526
3	水利技術の発達	526
二、土地制度と農地改革		540
1	農地調整と自作農創設	540
2	農地改革	542
3	農業災害補償制度	544
4	農業共済組合	545
三、土地改良事業		545

四、経営の動き		546
1	農家戸数と人口	546
2	農業就業と経営規模	547
五、農業生産の動き		548
1	作目編成の動向	548
2	農業技術の指導	549
第二章 農業協同組合		552
一、戦前の農村産業組合		552
1	産業組合法制定次前の農村協同組合	552
2	農村産業組合の漸次的発展期	553
3	農村産業組合の発展と統制機関化の時期	554
二、戦後の農業協同組合		556
1	戦後の農業会	556
2	初期の農業協同組合	559
3	再建整備の時期	559
4	整備促進体制下の農協	559
三、共済事業		561
1	共済事業の必要性和その歩み	561
四、農業倉庫		562
1	農業倉庫の意義と機能	562

2	農業倉庫の整備	562
五、伊豫農協の概況		563
1	伊豫農協合併の経過	563
2	合併の目的	564
3	伊豫農協の経営概況	564
4	伊豫農協の農業改造改良事業計画	565
六、伊豫園芸の歩み		566
1	組合設立まで	566
2	組合設立以後	569
第三章 農業の近代化		571
一、農業振興の基本構想		571
1	農業生産の目標	572
2	重点作目の生産目標額	573
3	農業生産技術の改善目標	574
4	集・出荷、販売の改善目標	575
二、農業構造改善に関する基本構想		575
三、地域開発構想		576
第四章 林業		577
一、山林の分布と経営条件		577
1	森林の分布と自然条件	577

第一章	藩政時代の教育	693
一、	大洲・新谷藩の文教と郡中地方	693
二、	学問の興隆	695
三、	寺小屋の教育	699
第二章	明治時代の教育	704
一、	学制の発布と実施	704
二、	教育制度の確立	710
1	小学校制度	710
2	小学校の変遷	711
三、	教育の整備	719
1	町村立小学校の整備	719
2	小学校教育の統制	724
3	当時の教育の状況	728
4	青年団の発足と青年教育の開始	731
5	教育関係諸団体・その他	735
第三章	大正時代の教育	738
一、	小学校教育の充実	738
1	教育制度の拡充	738
2	学校建築の拡充	739
3	新教育運動の展開	740

二、	実業教育の進展	742
1	伊豫郡立実業学校の創設	742
2	実業補習学校の進展	743
三、	教育関係団体の成長	744
1	青年団の発展	744
2	女子青年団の活動	745
3	婦人会の結成	746
4	幼児教育	747
5	その他の団体	748
第四章	昭和時代の教育	749
一、	昭和初期の教育	749
1	小学校教育の変化	749
2	小学校校舎の増改築	751
3	青年学校教育の振興	755
4	各種団体の状況	756
二、	戦時下の教育	758
1	初等教育の戦時体制	758
2	小学校施設の変化	765
3	青年学校教育の戦時体制	767
4	青少年団体の新体制	768

2	所有形態	578
3	樹種別面積と蓄積量	579
二、	林業経営の推移	581
1	造林	581
2	林産物	582
3	その他	584
4	林道	585
5	森林組合	586
第五章	商業	588
一、	藩政時代の商業	588
1	町のなりたち	588
2	港の築造	589
二、	明治以後の商業	595
三、	現代の商業	598
1	商業の近代化	598
2	商工会議所	603
第六章	工業	606
一、	明治ごろの工業	606
二、	工業の現況	608
第七章	水産業	622

一、	漁村の形成	622
二、	郡中・松前の網代紛争	625
三、	漁業形態及び漁業の現況	630
四、	水産加工	639
第八章	金融	642
一、	金融の変遷	642
二、	明治以降の金融	644
1	銀行業の発生と発展	644
2	産業組合	650
3	郵便貯金	652
三、	大正期以降の金融	653
四、	戦後の金融の状況	657
五、	現在の金融機関	659
第九章	交通・運輸・通信	660
一、	交通	660
1	明治以前の交通	660
2	明治期における交通・運輸	666
3	大正期における交通	678
4	昭和時代の交通・通信	682

1	俗信	900
2	風習	903
第四章	年中行事	905
第五章	民話と伝説	910
一、	端の左衛門	911
二、	入仏寺の伝説	914
三、	ちち子が池のどんこ	914
四、	尼弘法(妙円尼)	915
五、	五色の石	915
六、	一木神社の伝説	917
七、	谷上山宝珠寺の絵馬	918
八、	久美(九尾)さん	919
九、	蒲の城	920
一〇、	九門修理と虎月毛	920
一一、	大地蔵盆おどり	921
一二、	千人塚の伝説	922
一三、	白滝城と森山城	924
一四、	国松丸の伝説	925
一五、	森村の雨ごい	925
一六、	市場の祇園さん	926

一七、	猿神の伝説	927
一八、	上吾川の太刀打場	927
第六章	こどもの生活	929
一、	こどもの遊び	929
二、	わらべうた	931
第七章	民謡	943
一、	労働の中の歌	943
1	田鋤歌・牛追い歌	943
2	苗取り歌	944
3	田植歌	944
4	田草取り歌	945
5	もみすり歌	945
6	米つき歌	947
7	うすひき歌・粉ひき歌	947
8	地つき歌	947
9	糸ひき歌	950
10	樽漕歌・船頭歌	950
11	木挽き歌	951
12	機織り歌	951
13	馬子歌	952

第六編 宗教

第一章	神社	813
一、	神社の変遷	813
二、	現代の神社	818
第二章	寺院	840
一、	寺院の変遷	840
1	寺院のおこりとその変遷	840
2	明治時代の寺院	842
3	戦争と寺院	842
5	婦人団体の強化	770
三、	戦後の教育	772
1	戦後の義務教育	772
2	教育委員会	779
3	P・T・Aの活動	789
4	公民館の活動	792
5	青少年団体	797
6	婦人団体	801
7	図書館	805
8	幼稚園、高等学校、その他	807

第七編 民俗

第二章	村落社会の構造	885
一、	昔の村	885
二、	村(部落)の自治	885
三、	地名のおこり	888
第二章	労働慣行	895
一、	共同作業	895
二、	村休み	897
第三章	俗信・風習	899
二、	現在の寺院	844
第三章	キリスト教	871
一、	教会	871
第四章	教派神道・その他	874
一、	天理教	874
二、	金光教	876
三、	黒住教	877
四、	立正佼成会	878
五、	成長の家	880
六、	創価学会	881

第一編 自然環境

14	雑歌	952
	二、祝いごと・祈願などの歌	955
1	亥の子歌	955
2	雨乞い歌	956
	第八章 郷土芸能その他	960
	第九章 俚諺・方言	963
第八編 諸芸・文化財・観光		
	第一章 美術・工芸	967
1	美術・工芸の沿革	967
2	石造美術	970
3	伊豫市保管の美術工芸品	973
4	稲荷神社保管の美術工芸品	974
5	興徳山福田寺の美術工芸品	978
6	伊豫岡八幡神社の楼門・他	981
7	泰昌山栄養寺の美術工芸品	983
8	谷上山宝珠寺の仏像	983
9	湊町大師堂の工芸品	984
10	下吾川豊円寺の仏像	985
11	北村家（灘町）の書画	985

12	玉井家（上野）の書画	986
13	人形、その他	987
	第二章 文芸・その他	989
1	俳諧	989
2	短歌	1009
3	漢詩	1013
4	その他	1021
	第三章 文化財	1022
	第四章 観光	1038
	一、観光資源の現状	1038
	二、観光施設	1042
	三、行事	1043
	四、名物・名産	1044
第九編 人物		
	第一章 人物	1047
	第二章 伊豫市にゆかりのある人	1096
	第一〇編 年表	1121